

産科婦人科卒後臨床研修プログラム

I. 研修プログラムの目的及び特徴

卒後研修の選択必須科目である産科婦人科の研修プログラムである。女性特有の疾患による救急医療の初期診療、女性特有のプライマリケアおよび妊産褥婦の医療を経験し、女性患者に常に妊娠の可能性を考慮した診療を行い、プライマリケアおよび救急医療において、妊娠および婦人科疾患を合併した患者を鑑別し、専門医に紹介できる基本的知識、臨床能力および技能を修得する。

II. 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者：佐藤孝(診療部長)

III. 研修指導医

研修担当責任者：佐藤孝

指導医：立花聡司、井上潤

IV. 研修プログラムの管理運営

研修期間中は指導医によって教育、評価が行われる。

V. 募集定員 2名

VI. 教育課程

1. 研修開始年度 平成 25 年 4 月 1 日

2. 期間割と研修医配置予定

済生会習志野病院産科婦人科で研修を行う。1 ヶ月・2 ヶ月の研修は必須である。

さらに 3-7 ヶ月の研修を選択することも可能である。

3. 研修内容と到達目標

《1 ヶ月コース》

3-1. 一般目標

女性特有の疾患による救急医療の初期診療、女性特有のプライマリケアおよび妊産褥婦の医療を経験し、女性患者に常に妊娠の可能性を考慮した診療を行い、プライマリケアおよび救急医療において、妊娠および婦人科疾患を合併した患者を鑑別し、専門医に紹介できる基本的知識、臨床能力および技能を修得する。

3-2. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

(1) 医療面接：女性患者には常に妊娠の可能性を念頭に置き、病歴(主訴又は来院の目的、現病歴、家族歴、月経歴、結婚、配偶者歴、妊娠、分娩歴、既往歴)の聴取と記録ができる。

(2) 産婦人科的診察

1) 婦人科的診察

外陰部の視診、必要に応じて触診ができる。

膣鏡診：膣鏡を用いて子宮膣部、膣壁の視診ができる。また必要に応じて

細胞診用の検体を採取することができる。

狭義の内診：膣入口部、膣壁、膣円蓋の触診ができる。

双合診：子宮、付属器の触診ができる。

2) 産科的診察

外診:全身状態、乳房の観察、腹部の視診ができる。

Leopold 触診法ができる。

聴診:超音波ドプラー法で胎児心音が聴取できる。

内診及び双合診:外子宮口の開大に関して触診できる。

(3) 基本的な臨床検査

以下の検査を、

A=自ら実施し、結果を解釈できる。

B=自ら実施し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる。

C=指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる。

1) 妊娠反応 (A)

2) 子宮頸部の細胞診 (B)

3) 妊婦における胎嚢、胎芽、胎児の(経腹、経膣)超音波検査 (B)

4) 女性患者の放射線検査の実施に際して、妊娠時の制限を考慮して行える

(B)

5) 婦人科疾患、急性腹症における経腹、経膣超音波検査(B)

6) 胎児心拍モニタリングなど胎児胎盤機能検査(B)

7) コルポスコープの手技とその解釈(B)

8) 基礎体温の測定とその解釈(B)

(4) 基本的手技

A=自ら実施できる

B=専門家の指導のもとに実施できる

C=専門家の指導のもとに経験できる

- 1) 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)を実施できる。(A)
- 2) 採血法(静脈血)を実施できる。(A)
- 3) 穿刺法(腹腔、ダグラス窩)を実施できる。(B)
- 4) 導尿法を実施できる。(A)
- 5) 浣腸を実施できる。(A)
- 6) ドレーン・チューブ類の管理ができる。(A)
- 7) 胃管の挿入と管理ができる。(B)
- 8) 局所麻酔法を実施できる。(B)
- 9) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。(A)
- 10) 簡単な切開・排膿を実施できる。(C)
- 11) 皮膚縫合法を実施できる。(C)

(5) 基本的治療法

A=自ら実施できる

B=専門家の指導のもとに実施できる

C=専門家の指導のもとに経験できる

- 1) 妊産褥婦における薬物の作用、副作用、相互作用、禁忌について理解し、妊・産・褥婦に対する薬物治療ができる。(C)
- 2) 帝王切開、附属器摘出術、腹式単純子宮全摘術などの産婦人科手術療法
(C)
- 3) 正常分娩経過の観察と分娩介助(C)
- 4) 産婦人科救急疾患に対するプライマリケアを実施できる(C)

(6) 医療記録

- 1) 診療録(退院時サマリーを含む)を POS (Problem Oriented System) に従って記載し管理できる。
- 2) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- 3) 診断書、死亡診断書(死体検案書を含む)、その他の証明書を作成し、管理できる。
- 4) 剖検所見の記載・要約作成に参加し、診療の向上に役立てることができる。
- 5) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

(7) 経験すべき症状・病態・疾患

1) 症状

全身倦怠感、食欲不振、体重減少、体重増加、浮腫、動悸、腹痛、腰痛

2) 疾患・病態

ショック、急性腹症、貧血、流・早産および正常産

妊娠分娩と生殖器疾患 妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科
出

血、乳腺炎)女性生殖器およびその関連疾患(無月経、思春期・更年期障
害、

外陰・膣・骨盤内感染症、良性腫瘍(子宮筋腫、卵巣良性腫瘍、子宮内
膜
症、他)

悪性腫瘍(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣悪性腫瘍)

感染症 性感染症

(8) 救急医療

1) バイタルサインの把握ができる。

2) 重症度および緊急度の把握ができる。

3) 専門医への適切なコンサルテーションができる。

(9) 予防医療

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、性
感染症(エイズを含む)予防、家族計画指導に参画できる。地域検診(子宮癌検
診)に参画できる。

《3-7ヶ月コース》

3-3. 一般目標

女性患者に常に妊娠の可能性を考慮し、女性特有の疾患による救急医療の初期
診療、女性特有のプライマリケアおよび妊産褥婦の医療を行い、プライマリケアおよ
び救急医療において、妊娠および婦人科疾患を合併した患者を鑑別し、必要に応じ
て専門医に紹介できる。基本的知識、臨床能力および技能を修得する。

3-4. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

(1) 医療面接：女性患者には常に妊娠の可能性を念頭に置き、病歴(主訴又
は来院の目的、現病歴、家族歴、月経歴、結婚、配偶者歴、妊娠、
分娩歴、既往歴)の聴取と記録ができる。急性腹症において、婦
人科疾患(骨盤内腫瘍の茎捻転および破裂、子宮外妊娠)を疑

い、診断あるいは専門医にコンサルトできる。

(2) 産婦人科的診察

1) 婦人科的診察

外陰部の視診、必要に応じて触診ができる。

腔鏡診：腔鏡を用いて子宮腔部、腔壁の視診ができる。必要に応じて細胞診用の検体を採取できる。

狭義の内診：腔入口部、腔壁、腔円蓋の触診ができる。

双合診：子宮、付属器の触診ができる。

2) 産科的診察

外診：全身状態、乳房の観察、腹部の視診ができる。

Leopold 触診法ができる。

聴診：超音波ドプラー法で胎児心音が聴取できる。

内診及び双合診：外子宮口の開大に関して触診できる。

産婦人科的診察視診〔腔鏡診を含む〕および触診(外診、双合診、妊婦の Leopold 診察)]を行える。

(3) 基本的な臨床検査

以下の検査を、

A=自ら実施し、結果を解釈できる。

B=自ら実施し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる。

C=指示し、専門家の意見に基づき結果を解釈できる。

1) 妊娠反応 (A)

2) 子宮頸部の細胞診(B)

3) 妊婦における胎嚢、胎芽、胎児の(経腹、経膈)超音波検査 (B)

4) 女性患者の放射線検査の実施に際して、妊娠時の制限を考慮して行える

(B)

5) 婦人科疾患、急性腹症における経腹、経膈超音波検査(B)

6) 胎児心拍モニタリングなど胎児胎盤機能検査(B)

7) コルポスコープの手技とその解釈(B)

8) 基礎体温の測定とその解釈(B)

(4) 基本的手技

A=自ら実施できる

B=専門家の指導のもと実施できる

1) 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)を実施できる。(A)

2) 採血法(静脈血)を実施できる。(A)

3) 穿刺法(腹腔、ダグラス窩)を実施できる。(B)

- 4) 導尿法を実施できる。(A)
 - 5) 浣腸を実施できる。(A)
 - 6) ドレーン・チューブ類の管理ができる。(A)
 - 7) 胃管の挿入と管理ができる。(B)
 - 8) 局所麻酔法を実施できる。(B)
 - 9) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。(A)
 - 10) 簡単な切開・排膿を実施できる。(B)
 - 11) 皮膚縫合法を実施できる。(B)
 - 12) 子宮頸部、体部細胞診が実施できる(A)
- (5) 基本的治療法
- A=自ら実施できる
B=専門家の指導のもと実施できる
- 1) 妊産褥婦における薬物の作用、副作用、相互作用、禁忌について理解し、妊・産・褥婦に対する薬物治療ができる。(B)
 - 2) 帝王切開、附属器摘出術、腹式単純子宮全摘術などの産婦人科手術療法 (B)
 - 3) 正常分娩経過の観察と分娩介助(B)
 - 4) 産婦人科救急疾患に対する初期治療を実施できる(B)
 - 5) 女性特有の疾患に対してプライマリケアを実施できる(B)
 - 6) 化学療法の適応、実施法、作用、副作用について理解し行うことができる
- (B)
- (6) 医療記録
- 1) 診療録(退院時サマリーを含む)を POS (Problem Oriented System) に従って記載し管理できる。
 - 2) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
 - 3) 診断書、死亡診断書(死体検案書を含む)、その他の証明書を作成し、管理できる。
 - 4) 剖検所見の記載・要約作成に参加し、診療の向上に役立てることができる。
 - 5) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。
- (7) 経験すべき病状・病態・疾患
- 1) 症状
全身倦怠感、食欲不振、体重減少、体重増加、浮腫、動悸、腹痛、腰痛
 - 2) 疾患・病態
ショック、急性腹症、貧血、流・早産および満期産
妊娠分娩と生殖器疾患 妊娠分娩[正常妊娠、異常妊娠および分娩(子宮外妊娠、流産、早産、多胎、fetal distress)、産科出血、乳腺炎]

女性生殖器およびその関連疾患[月経異常、思春期・更年期障害、外陰・
腔・骨盤内感染症、良性腫瘍(子宮筋腫、卵巣良 性腫瘍、子宮内膜症、
他)

悪性腫瘍(子宮頸癌、子宮体癌、卵巣悪性腫瘍)]

(8) 救急医療

- 1) バイタルサインの把握ができる。
- 2) 重症度および緊急度の把握ができる。
- 3) 専門医への適切なコンサルテーションができる。

(9) 予防医療

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、性
感染症(エイズを含む)予防、家族計画指導に参画できる。地域検診(子宮癌検
診)に参画できる。

VII. 週間研修スケジュール

	AM	PM
月	病棟・手術	手術
火	病棟	病棟
水	病棟・手術	手術
木	病棟	病棟
金	病棟	病棟

VIII. 評価方法

産科婦人科プログラム終了時に産科婦人科に関して指導医及び研修担当責任
者が評価する。